

「測量士の社会的地位の向上」のために、 映画「劔岳 点の記」を大いに宣伝しましょう

玉野総合コンサルタント(株) 測量部 大西 俊次



いつも、本誌の『劔岳 点の記』関連記事を、大変興味深く拝読しています。

映画『劔岳 点の記』は、大学および研修会等で、明治の測量の話と共に映画を紹介しパンフレット等を配布してい

ます。映画にみる測量の国家事業を通して、測量への理解と「測量士の社会的地位の向上」のために、と考えています。

いま、測量士の社会的地位の向上をめざすには、成すべき事項と問題点も多くあります。

そうした中で、いま実行できる事項として、

(1) 測量業務における測量法の適用と測量法を遵守することの行政指導。

詳細は省きますが、測量法は、測量士・補の資格を与えると共に法律でもって、社会的使命を与え、違反者には懲役刑をも科すという厳しい法律です。測量法を遵守することで、国民から信頼と存在価値が認められ、社会的地位の向上に繋げようとするものです。

(2) 測量の教育と一般社会への広報。

今日の本論は、この項目です。教育についても多くの問題があります。資格と教育については、国土地理院・諮問機関の測量行政懇談会・測量資格制度部会で、本誌の清水英範編集委員長（東京大学大学院教授）がまとめられていると聞いています。もう一つの「一般社会への広報」は、測量関係者が真剣に対応して来たとは言いきれないと思っています。

日本の戦後の高度成長と経済の変遷、業務発注の形態を考えると、必ずしも責めることのできない部分も多くあります。しかし、業界として見過ごしてきた部分でもあります。いまの現状を見ると、

①社会から信頼されない、若い優秀な人材の集まらない分野に、将来の発展性はあり得ません。若い女性に理解されることも、重要です。

②次代に重要な社会資本の整備、迫り来る災害への安心と安全が一般国民に理解されれば、国公費の投入は理解されます。社会資本の整備、公共投資の悪のイメージはまさに、マスコミが悪い部分だけを取り上げることによるものだと思います。しかし、問題点も多くあり、引き続き改善しなければなりません。社会資本の整備は、次代を築く

基礎であり、公共投資を怠ると国民の安心・安全すら守られなくなります。

③そのために、今できることのひとつが、教育と一般社会への広報と考えます。教育と広報の成果は、直ちに目に見えるものでないかもしれませんが、将来を見据え、特に若年層に将来の人材として、一般国民には測量の理解を求めるものです。

まずは、測量を知ってもらい、国民に理解され、一般社会の支援と共感を得るということだと思います。経済原理に基づく公共投資から、国民、一般社会に支持される公共投資の時代になっています。

一般への広報を組織的に行うことは、とても大変です。言うまでもなく、今回の映画『劔岳 点の記』は、まさに測量を一般社会に訴える千載一遇のチャンスだと理解しています。現在の日常での測量とはやや異なるが、測量に携わる測量士の気概とか、測量を通しての人間の生き方、苦難に立ち向かい自己を超越する使命感は、伝わると思います。これらが、山岳の厳しさ、映像の美しさに融け込み、素晴らしい作品になると、期待しています。その世界は、まさしく測量士が主人公であり、ヒーローそのものです。

測量業界としては、このチャンスを逃す手はありません。そのためには、

①測量士それぞれが意義を理解し、周りの人に折に触れ映画を紹介する。

②測量業界、その関係者が、多くの人に映画を見て貰うために、事前の宣伝に力を入れる。

③映画が、大盛況で話題になる。話題になればTVのワイドショーで取り上げられる。話題になれば、さらに多くの人が見に行く。もう手を出さなくても宣伝になります。

よって、多くの測量関係者が映画の公開と共に映画を見に行くことが、重要かと思っています。

④中高年の山ブームを取り込めないか。

測量士、測量関係者の皆さん、測量に関わりのない身近な人にも紹介し、多くの人と共に自然の雄大さと美しさ、人が織りなす感動を分かち合いましょう。

以上、考えると(社)日本測量協会の対応と月刊『測量』の先駆的な取り組みは、測量業界にとってとても重要なことで、大事な役目であると思います。ご苦勞様でございます。